鹿児島工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	科学技術英語

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	機械・電子システム工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「Go Global」Garry Pearson他, 成美堂 英和･和英辞書は既に購入しているものでよい		
担当教員	坂元 真理子		

到達目標

英語の文章の特徴や論理的な文章・考え方について理解することができる。英語を使った学習活動を通して社会や自分のことに目を向け、物事を論理的に考え英語で発表することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
談話分析について	談話について理解したことを、発表や議論の中で実践することができる。	談話について理解したことを、与えられた課題や題材の中で実践することができる。	談話の概念について理解することができていない。
英語の論理構成について	英語のパラグラフの論理構成について理解し、講義で扱う教材の内容と論点を把握したうえでそれについての自分の意見を英語でまとめ、発表したり議論したりすることができる。	英語のパラグラフの論理構成について理解し、講義で扱う教材の内容と論点を把握したうえでそれについての自分の意見を英語でまとめることができる。	英語のパラグラフの論理構成について理解し、講義で扱う教材の内容と論点を把握することができていない。
英語のポライトネスについて	英語のビジネス場面における礼儀正しい表現やくだけた表現について理解し、それを用いて言語表現を行なうことができる。	英語のビジネス場面における礼儀正しい表現やくだけた表現について理解し、与えられた課題の中で応用して実践することができる。	英語のビジネス場面における礼儀正しい表現やくだけた表現について理解し実践することができていない。
プレゼンテーションの技法について	プレゼンテーションの技法について理解し、発表や議論の中で英語で実践することができる。	プレゼンテーションの技法について理解し、与えられた課題や題材を応用して英語で実践することができる。	プレゼンテーションの技法について理解し、与えられた課題や題材に従って英語で実践することができていない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達目標 2-3 学習・教育到達目標 4-3
JABEE（2012）基準 1(2)(a)
教育プログラムの科目分類 (1)②

教育方法等

概要	英語で論理的にコミュニケーションを行うための基礎的な内容を学ぶレベル。本科目を履修し、2年次前期の「論理的英語コミュニケーション」につなげる。
授業の進め方・方法	授業では講義のほか、個人、ペア、グループでの活動を行う。また決められたテーマに対し個人およびグループでプレゼンテーションや簡単なプロジェクトを行う。
注意点	入学時に、英文法全般について理解し、その知識を用いて英文を読んだり書いたりできる程度の語学力を有していること。与えられた題材に対し、自分の考えをまとめて書いたり発表したりする活動を行う。そのため十分なやる気と、人前で自分の意見を英語で発表することを厭わない姿勢が必要とされる。授業は殆どを英語で行う。〔授業（90分）＋自学自習（210分）〕×15回

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	談話の概念	談話の概念について理解することができる。
		2週	結束性と一貫性	結束性と一貫性について理解することができる。
		3週	論理構成	論理構成について理解することができる。
		4週	論理構成	論理構成について，与えられた題材を基に個人またはグループで実践活動を行ない，成果を発表することができる。
		5週	英語の論理構成とポライトネスを形成する要素	英語の論理構成やポライトネスを形成する要素と表現について理解することができる。
		6週	英語の論理構成とポライトネスを形成する要素	英語の論理構成とポライトネスを形成する要素と表現について，与えられた題材を基に個人またはグループで実践活動を行ない，成果を発表することができる。
		7週	英語の論理パターンに基づいた自己表現	英語の論理パターンに基づいた自己表現について理解することができる。
		8週	英語の論理パターンに基づいた自己表現	英語の論理パターンに基づいた自己表現について，与えられた題材を基に個人またはグループで実践活動を行ない，成果を発表することができる。
	4thQ	9週	論理的思考	論理的思考について理解することができる。
		10週	論理的思考	論理的思考について，与えられた題材を基に個人またはグループで実践活動を行ない，成果を発表することができる。
		11週	論理展開と自己表現	論理展開と自己表現について理解することができる。
		12週	論理展開と自己表現	論理展開と自己表現について，与えられた題材を基に個人またはグループで実践活動を行ない，成果を発表することができる。
		13週	プレゼンテーションの技法	について，与えられた題材を基に個人またはグループで実践活動を行ない，成果を発表することができる。

		14週	プレゼンテーションの 技法	これまでに学んだ内容をプレゼンテーションの技法を活かして実践し、英語コミュニケーション能力の一部として身につけることができる。
		15週	Wrap Up	上記の項目について理解を深めることができる。
		16週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。 （非評価項目）

評価割合

	試験	レポート等	態度	合計
総合評価割合	70	30	0	100
目標達成度	70	30	0	100